

# 川崎医科大総合医療センター1周年

## 子どもの貧困支援訴え

### 市民公開講座 発達障害もテーマ

川崎医科大総合医療センター（岡山市北区中山下）の開院1周年を記念した市民公開講座が9日、同センター

を取り巻く問題と支援について講演した。

大（倉敷市松島）の教員2人が現代の子ども

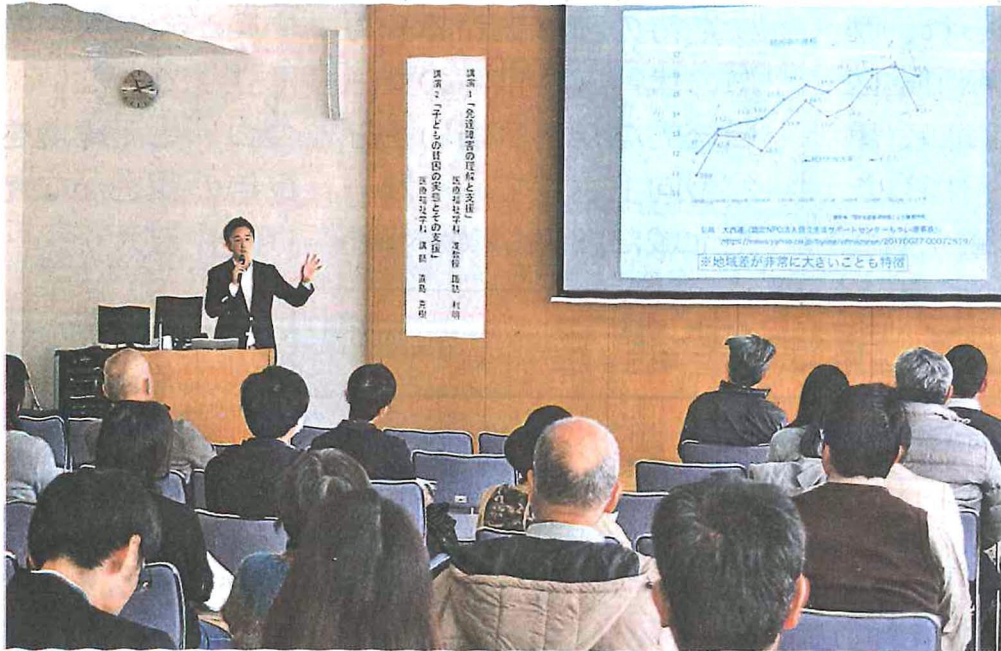
岡山子どもの貧困対策ネットワーク会議の代表を務める直島克樹

講師は、県内で増えている子ども食堂や学習支援の活動について

「子どもだけでなく、地域のつながりを紡ぎ直す場にもなっている」と指摘。貧困に気付きやすい保育所や学校を中心に、民生委員や保健師、NPOなどが連携したチームによる支援を呼び掛けた。

諏訪利明准教授は発達障害をテーマに話し、障害を「治す」のではなく「正しく理解し、受け止め、『自分でできた』という達成感を育てていくことで大人に成長していきける」と訴えた。小中学校教員ら約130人が耳を傾けた。

川崎医科大総合医療センターは昨年12月に開院した。病床数は647で内科や外科、小児科など22の診療科がある。（三宅信行）



市民公開講座で講演する直島講師（奥）